

ジェネリック医薬品使用促進広報の詳細

番号	広報対象	優先度 (影響度)	使用割合が低迷している理由	支部で考えている広報手段	広報したい内容	広報主体
1	高知県内 ● 20代 ● 30代	低 (-0.61)	影響度を年代別で見ると、20代-0.27、30代-0.34である。医薬品数量の構成割合は低いため影響度は小さいが、若い世代においても使用割合を押し下げている。	● SNS を使用した広報	<ul style="list-style-type: none"> ● 医学的な知識を持たない一般加入者でも理解できる「ジェネリック医薬品とは」を伝える。 ● ジェネリック医薬品を選択することは、医療費の自己負担が軽減されるだけでなく、医療費全体の増加を抑制することにもつながり、ひいては負担する保険料(率)の上昇抑制につながることを伝える。 ● 40代から医薬品数量の構成割合が増えてくる傾向があるため、30代から自身の健康に興味をもっていただきたいが、自身の健康が後回しになりやすい年代でもあることから、早期受診・早期治療やジェネリック医薬品使用による医療費軽減の広報も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ジェネリック使用促進 ● 上手な医療のかかり方
2	高知県内 ● 0~14歳の保護者	中 (-0.92)	年代別で見ると、7~14歳の使用割合が65.5%と一番低い。0~6歳も72.3%と低く影響度も0~6歳が-0.44、7~14歳で-0.48となっており使用割合を押し下げている。	● 0~14歳の保護者である20~40代の視聴率が比較的高い時間帯にテレビCMを放映	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの医療費は、加入している保険者(協会けんぽ)と自治体(市町村)から負担されており、健康保険料や税金で賄われている。ジェネリック医薬品を選択することは、医療費の自己負担が軽減されるだけでなく、医療費全体の増加を抑制することにもつながり、ひいては負担する保険料(率)や税金の上昇抑制につながることを伝えるとともに、現在の医療制度を維持し、次世代に引き継ぐことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ジェネリック使用促進
3	高知県内 ● 40代	低 (-0.62)	年代別で見ると、影響度は-0.62、20代30代と比較して、医薬品数量の構成割合が徐々に高くなる分岐点であり、使用割合を押し合下げている。	<ul style="list-style-type: none"> ● 40代の視聴率が比較的高い時間帯にテレビCMを放映 ● SNS 使用した広報 	<ul style="list-style-type: none"> ● ジェネリック医薬品を選択することは、医療費の自己負担が軽減されるだけでなく、医療費全体の増加を抑制することにもつながり、ひいては負担する保険料(率)の上昇抑制につながることを伝えるとともに、現在の医療制度を維持し、次世代に引き継ぐことを伝える。 ● 40代から医薬品数量の構成割合が増えてくる傾向があることから体の分岐点と考えられる年代でありながら、自身の健康が後回しになりやすい年代であるため、早期受診・早期治療やジェネリック医薬品使用による医療費軽減の広報も必要であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ジェネリック使用促進 ● 上手な医療のかかり方
4	高知県内 ● 50代 ● 60代	高 (-1.93)	年代別で見ると、50代24.2%、60代27.4%と医薬品数量の構成割合が高くことから、影響度も大きく、使用割合を押し合下げている。	● 50~60代の視聴率が比較的高い時間帯にテレビCMを放映	<ul style="list-style-type: none"> ● ジェネリック医薬品を選択することは、医療費の自己負担が軽減されるだけでなく、医療費全体の増加を抑制することにもつながり、ひいては負担する保険料(率)の上昇抑制につながることを伝えるとともに、現在の医療制度を維持し、次世代に引き継ぐことを伝える。 ● 40代から引続き体に異常が出始める50代も医薬品数量の構成割合がさらに増えてくる傾向があるが、時間や金銭面において自身の健康が後回しになりやすい年代であるため、早期受診・早期治療やジェネリック医薬品使用による医療費軽減、生涯トータルの医療費軽減にも触れた広報が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ジェネリック使用促進 ● 上手な医療のかかり方

5	<p>高知県内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アレルギー用薬を使用している加入者 ●アレルギー用薬を処方する医療機関等 	<p>中 (-0.86)</p>	<p>薬効2桁別で見ると、アレルギー用薬の影響度が-0.86と使用割合を押し下げている。他の都道府県と比較しても、特異的に低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●アレルギー用薬の使用が増える花粉症の時期に合わせて薬局や医療機関にポスターを配布。また、加入者向けにチラシ配布やテレビCM、SNSでの発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ジェネリック医薬品を選択することは、医療費の自己負担が軽減されるだけでなく、医療費全体の増加を抑制することにもつながり、ひいては負担する保険料(率)の上昇抑制につながることを伝えるとともに、現在の医療制度を維持し、次世代に引き継ぐことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ジェネリック使用促進
6	<p>高知県内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医療業・保健衛生 ●社会保険・社会福祉・介護事業 	<p>高 (-1.57)</p>	<p>業態別で見ると、医療業・保健衛生が医薬品数量の構成割合15.0%でその他を除いて一番構成割合が大きいにもかかわらず、使用割合が71.7%で業種別では最下位であり、使用割合を押し下げている。また、次いで社会保険・社会福祉・介護事業も-0.53と使用割合を押し下げている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●SNS使用した広報 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己負担軽減だけでなく、医療費の増加を抑制することにより、現在の医療制度を維持し、次世代に引き継ぐことや保険料率の向上抑制になることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ジェネリック使用促進